

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2025年11月14日
【中間会計期間】	第68期中(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
【会社名】	株式会社京写
【英訳名】	KYOSHA CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 児嶋 一登
【本店の所在の場所】	京都府久世郡久御山町森村東300番地
【電話番号】	(075) 631 - 3292
【事務連絡者氏名】	取締役 専務執行役員 経営管理本部長 平岡 俊也
【最寄りの連絡場所】	京都府久世郡久御山町森村東300番地
【電話番号】	(075) 631 - 3292
【事務連絡者氏名】	取締役 専務執行役員 経営管理本部長 平岡 俊也
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第67期 中間連結会計期間	第68期 中間連結会計期間	第67期
会計期間	自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日	自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日	自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日
売上高 (百万円)	12,808	12,351	26,229
経常利益 (百万円)	448	219	992
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益 (百万円)	270	107	614
中間包括利益又は包括利益 (百万円)	1,541	618	1,754
純資産額 (百万円)	9,886	9,348	10,100
総資産額 (百万円)	25,867	23,182	24,754
1株当たり中間(当期)純利益 (円)	18.68	7.42	42.37
潜在株式調整後1株当たり 中間(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	37.2	39.3	39.7
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	821	867	1,666
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	453	622	736
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	188	402	761
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高 (百万円)	5,317	4,784	5,273

(注) 1. 当社は中間連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益について、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、当半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当中間連結会計期間の当社が属するプリント配線板業界は、国内では自動車の生産低迷が続いており、家電製品などの生産は増加したものの、需要は依然として足踏みが見られました。海外はアセアンにおいて緩やかな回復が続きました。一方で、米国の関税政策による世界経済への影響、中国の景気減速、為替変動、地政学リスクによる原材料、エネルギー価格の高止まりなど、先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような環境の中、当社グループの国内の状況は、プリント配線板事業では、自動車関連分野の受注低迷が続いたものの、家電製品やアミューズメント分野の受注の増加により、前年同期を上回りました。実装関連事業は、回復傾向にあるものの、主力の航空機向けで在庫調整の影響を受け受注が減少しました。これらの結果、国内の売上高はプリント配線板事業の増収により前年同期を上回りました。

海外においては、自動車向けは付加価値の高い金属基板の受注は増加するも受注全体が減少し、また事務機分野の受注が減少した結果、売上高は前年同期を下回りました。これらの結果、連結売上高は12,351百万円（前年同期比3.6%減 457百万円の減収）となりました。

利益面は、国内で自動車関連分野の低迷、金属基板の新規量産立上げに伴う費用増加、原材料及び製造経費等の高騰に対し、継続して販売価格適正化やコスト改善等に取り組んだ結果、営業損失が縮小しました。海外では減収の影響と、インドネシアで増産に向けた設備増強のため稼働調整を行い減益となりました。

これらの結果、営業利益は338百万円（前年同期比49.1%減 326百万円の減益）、経常利益は219百万円（前年同期比51.0%減 228百万円の減益）、親会社株主に帰属する中間純利益は107百万円（前年同期比60.1%減 162百万円の減益）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

（日本）

プリント配線板事業は、自動車関連分野の受注低迷が続いたものの、家電製品やアミューズメント分野の受注の増加により、前年同期を上回りました。実装関連事業は、回復傾向にあるものの、主力の航空機向けで在庫調整の影響を受け受注が減少しました。これらの結果、売上高は5,222百万円（セグメント間の内部取引高を含む、前年同期比3.1%増 155百万円の増収）、セグメント損失（営業損失）は、自動車関連分野の低迷、金属基板の新規量産立上げに伴う費用増加、原材料及び製造経費等の高騰に対し、販売価格適正化やコスト改善等に取り組んだ結果、62百万円（前年同期比 29百万円の増益）となりました。

（中国）

プリント配線板事業は、アセアン向けの自動車関連分野と中国で事務機分野等の受注が減少した結果、売上高は6,482百万円（セグメント間の内部取引高を含む、前年同期比8.6%減 606百万円の減収）、セグメント利益（営業利益）は、付加価値の高い自動車向け金属基板は好調に推移したものの、減収の影響により、431百万円（前年同期比25.7%減 149百万円の減益）となりました。

（インドネシア）

プリント配線板事業は、増産に向けた設備増強のための稼働調整の影響により、売上高は1,302百万円（セグメント間の内部取引高を含む、前年同期比6.4%減 88百万円の減収）、セグメント損失（営業損失）は、減収の影響により、126百万円（前年同期比 126百万円の減益）となりました。

（メキシコ）

実装治具事業の受注減の影響により、売上高は76百万円（セグメント間の内部取引高を含む、前年同期比18.4%減 17百万円の減収）、セグメント利益（営業利益）は、プリント配線板事業の売上増加により 3 百万円（前年同期比 186.7%増 2 百万円の増益）となりました。

（ベトナム）

プリント配線板事業は、アセアンと北米向けの自動車関連分野の受注が減少した結果、売上高は1,990百万円（セグメント間の内部取引高を含む、前年同期比11.0%減 245百万円の減収）、セグメント利益（営業利益）は、減収の影響により、41百万円（前年同期比79.0%減 158百万円の減益）となりました。

(2) 財政状態の分析

（総資産）

当中間連結会計期間末における総資産は、主に現金及び預金の減少487百万円、受取手形及び売掛金の減少356百万円、有形固定資産の減少562百万円等により、23,182百万円（前連結会計年度末比1,572百万円の減少）となりました。

（負債）

当中間連結会計期間末における負債は、主に支払手形及び買掛金の減少168百万円、電子記録債務の減少108百万円、1年以内返済予定の長期借入金の増加246百万円、未払法人税等の減少113百万円、長期借入金の減少637百万円等により、13,833百万円（前連結会計年度末比820百万円の減少）となりました。

（純資産）

当中間連結会計期間末における純資産は、主に為替換算調整勘定の減少832百万円等により、9,348百万円（前連結会計年度末比751百万円の減少）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前中間連結会計期間より532百万円減少し、4,784百万円となりました。各活動別のキャッシュ・フローの状況とその要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の増加額は、867百万円（前年同期は821百万円の増加）となりました。これは主に税金等調整前中間純利益197百万円、減価償却費552百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金の減少額は、622百万円（前年同期は453百万円の減少）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出608百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の減少額は、402百万円（前年同期は188百万円の減少）となりました。これは主に長期借入金の返済による支出281百万円、配当金の支払額158百万円によるものであります。

(4) 研究開発活動

当中間連結会計期間の研究開発費の総額は33百万円であります。

なお、当中間連結会計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【重要な契約等】

当中間連結会計期間において、重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	58,000,000
計	58,000,000

【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (2025年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2025年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	14,624,000	14,624,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数は100株 あります。
計	14,624,000	14,624,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

(ライツプランの内容)

該当事項はありません。

(その他の新株予約権等の状況)

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2025年9月30日		14,624,000		1,102		1,152

(5) 【大株主の状況】

2025年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社児嶋コーポレーション	京都市伏見区桃山南大島町95-42	2,048	14.0
児嶋 雄二	京都市伏見区	955	6.5
児嶋 淳平	東京都大田区	525	3.6
株式会社エヌピーシー	岐阜県大垣市世安町4丁目31	524	3.6
児嶋 一登	京都市下京区	476	3.3
児嶋 亨	東京都大田区	466	3.2
池田 朋子	京都市伏見区	430	2.9
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	395	2.7
株式会社メイコー	神奈川県綾瀬市大上5丁目14-15	273	1.9
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内1丁目4-5	260	1.8
計		6,353	43.5

(注) 1. 当社は、自己株式23千株(0.2%)を保有しております。

2. 第5位の児嶋一登氏は、株式会社児嶋を実質的に所有しており、当該株式(180千株)を含めた場合の所有株式数は656千株、第3位となります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2025年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 23,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,596,300	145,963	
単元未満株式	普通株式 3,900		
発行済株式総数	14,624,000		
総株主の議決権		145,963	

(注)「単元未満株式」の普通株式には、当社所有の自己株式87株が含まれております。

【自己株式等】

2025年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社京写	京都府久世郡久御山町 森村東300番地	23,800		23,800	0.2
計		23,800		23,800	0.2

(注)(自己保有株式)株式会社京写の株式数は、単元未満株式87株を除く株式数により記載しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．中間連結財務諸表の作成方法について

当社の中間連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号の上欄に掲げる会社に該当し、連結財務諸表規則第1編及び第3編の規定により第1種中間連結財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間(2025年4月1日から2025年9月30日まで)に係る中間連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による期中レビューを受けております。

1 【中間連結財務諸表】
(1) 【中間連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,422	4,934
受取手形及び売掛金	3,712	3,355
電子記録債権	673	646
製品	2,123	1,808
仕掛品	713	697
原材料及び貯蔵品	1,570	1,632
その他	1,621	1,608
貸倒引当金	3	1
流動資産合計	15,834	14,683
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,838	5,703
減価償却累計額	4,179	4,111
建物及び構築物（純額）	1,659	1,591
機械装置及び運搬具	13,506	13,203
減価償却累計額	9,202	9,065
機械装置及び運搬具（純額）	4,304	4,137
土地	724	724
建設仮勘定	420	65
その他	1,610	1,611
減価償却累計額	1,130	1,104
その他（純額）	480	506
有形固定資産合計	7,588	7,025
無形固定資産	140	114
投資その他の資産		
投資有価証券	592	762
繰延税金資産	105	112
長期滞留債権	703	643
その他	496	484
貸倒引当金	705	643
投資その他の資産合計	1,192	1,359
固定資産合計	8,920	8,499
資産合計	24,754	23,182

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,005	2,837
電子記録債務	814	706
短期借入金	3,635	3,610
1年内返済予定の長期借入金	673	919
リース債務	37	34
未払法人税等	287	173
賞与引当金	268	260
その他	1,051	1,071
流動負債合計	9,774	9,614
固定負債		
長期借入金	4,098	3,460
リース債務	42	48
退職給付に係る負債	336	335
その他	402	374
固定負債合計	4,880	4,219
負債合計	14,654	13,833
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,102	1,102
資本剰余金	1,222	1,241
利益剰余金	4,678	4,626
自己株式	10	2
株主資本合計	6,992	6,967
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	220	333
繰延ヘッジ損益	245	228
為替換算調整勘定	2,770	1,937
退職給付に係る調整累計額	92	91
その他の包括利益累計額合計	2,837	2,134
非支配株主持分	269	246
純資産合計	10,100	9,348
負債純資産合計	24,754	23,182

(2) 【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
売上高	12,808	12,351
売上原価	10,455	10,436
売上総利益	2,353	1,914
販売費及び一般管理費	1,687	1,575
営業利益	665	338
営業外収益		
受取利息	6	5
受取配当金	5	8
為替差益		20
雑収入	10	21
営業外収益合計	22	54
営業外費用		
支払利息	182	156
為替差損	50	
売上債権売却損	2	2
雑損失	5	14
営業外費用合計	240	174
経常利益	448	219
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産売却損	0	3
固定資産除却損	2	18
特別損失合計	3	22
税金等調整前中間純利益	444	197
法人税、住民税及び事業税	158	89
法人税等合計	158	89
中間純利益	285	108
非支配株主に帰属する中間純利益	15	0
親会社株主に帰属する中間純利益	270	107

【中間連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
中間純利益	285	108
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	113
繰延ヘッジ損益	18	16
為替換算調整勘定	1,241	855
退職給付に係る調整額	3	0
その他の包括利益合計	1,255	726
中間包括利益	1,541	618
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,496	594
非支配株主に係る中間包括利益	44	23

(3) 【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	444	197
減価償却費	537	552
引当金の増減額（ は減少）	90	60
退職給付に係る負債の増減額（ は減少）	14	0
受取利息及び受取配当金	12	13
支払利息	182	156
有形固定資産除売却損益（ は益）	3	21
売上債権の増減額（ は増加）	240	53
棚卸資産の増減額（ は増加）	622	3
仕入債務の増減額（ は減少）	188	350
その他	38	63
小計	1,104	1,210
利息及び配当金の受取額	12	13
利息の支払額	179	152
法人税等の支払額	115	204
営業活動によるキャッシュ・フロー	821	867
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1	1
有形固定資産の取得による支出	451	608
無形固定資産の取得による支出	1	7
有形固定資産の売却による収入	6	1
投資有価証券の取得による支出	5	6
投資活動によるキャッシュ・フロー	453	622
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	86	61
長期借入れによる収入	228	
長期借入金の返済による支出	333	281
配当金の支払額	143	158
リース債務の返済による支出	27	23
財務活動によるキャッシュ・フロー	188	402
現金及び現金同等物に係る換算差額	397	332
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	576	489
現金及び現金同等物の期首残高	4,740	5,273
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,317	4,784

【注記事項】

(会計方針の変更等)

当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)	
(会計上の見積りの変更) 当社の連結子会社であるGuangzhou Kyosha Circuit Technology Co.,Ltd.及びGuangzhou Kyosha Trading Companyが保有する有形固定資産について、当中間連結会計期間において使用実態を見直した結果、従来の耐用年数よりも長期間使用可能であることが明らかとなったため、耐用年数及び残存価額を将来にわたり変更しております。 これにより、従来の方法に比べて、当中間連結会計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前中間純利益はそれぞれ31百万円増加しております。	

(中間連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)	
税金費用の計算	税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(中間連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
役員報酬	64百万円	67百万円
給料手当及び賞与	537百万円	539百万円
賞与引当金繰入額	74百万円	77百万円
退職給付費用	15百万円	10百万円
貸倒引当金繰入額	0百万円	4百万円

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
現金及び預金勘定 預入期間が3か月を超える 定期預金等	5,464百万円 147百万円	4,934百万円 150百万円
現金及び現金同等物の 中間期末残高	5,317百万円	4,784百万円

(株主資本等関係)

前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年6月21日 定時株主総会	普通株式	144	10	2024年3月31日	2024年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2025年6月27日 定時株主総会	普通株式	159	11	2025年3月31日	2025年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計
	日本	中国	インド ネシア	メキシコ	ベトナム	
売上高						
外部顧客への売上高	4,697	6,545	1,173	54	337	12,808
セグメント間の内部売上高又は振替高	368	543	218	39	1,898	3,068
計	5,066	7,088	1,391	93	2,236	15,876
セグメント利益又は損失()	92	581	0	1	200	691

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	691
「その他」の区分の利益	
セグメント間取引消去	25
中間連結損益計算書の営業利益	665

当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計
	日本	中国	インド ネシア	メキシコ	ベトナム	
売上高						
外部顧客への売上高	4,841	5,862	1,158	35	454	12,351
セグメント間の内部売上高又は振替高	381	620	143	41	1,536	2,722
計	5,222	6,482	1,302	76	1,990	15,073
セグメント利益又は損失()	62	431	126	3	41	288

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	288
「その他」の区分の利益	
セグメント間取引消去	50
中間連結損益計算書の営業利益	338

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					合計
	日本	中国	インド ネシア	メキシコ	ベトナム	
片面プリント配線板	1,602	3,208	878			5,689
両面プリント配線板	1,553	3,225	266		381	5,427
実装・搬送治具、その他	1,541	111	28	54	43	1,691
顧客との契約から生じる収益	4,697	6,545	1,173	54	337	12,808
外部顧客への売上高	4,697	6,545	1,173	54	337	12,808

当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					合計
	日本	中国	インド ネシア	メキシコ	ベトナム	
片面プリント配線板	1,736	3,253	825			5,815
両面プリント配線板	1,572	2,477	306		531	4,887
実装・搬送治具、その他	1,532	131	27	35	77	1,648
顧客との契約から生じる収益	4,841	5,862	1,158	35	454	12,351
外部顧客への売上高	4,841	5,862	1,158	35	454	12,351

(1 株当たり情報)

1 株当たり中間純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
1 株当たり中間純利益	18円68銭	7 円42銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純利益(百万円)	270	107
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 中間純利益(百万円)	270	107
普通株式の期中平均株式数(千株)	14,477	14,545

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2025年11月13日

株式会社 京 写
取締役会 御 中

太陽有限責任監査法人

京都事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 沖 聡

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 則 岡 智 裕

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社京写の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間（2025年4月1日から2025年9月30日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社京写及び連結子会社の2025年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

中間連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、中間連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において中間連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適

切でない場合は、中間連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 中間連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、中間連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは期中レビューの対象には含まれていません。